

# 令和3年度第1回秋田県地域公共交通活性化協議会

## 地域部会の概要

### 【県北地域部会】

日 時 令和3年5月20日（木） 午後1時30分～午後3時  
場 所 各委員の職場・自宅等からのリモート開催  
参 集 委員31名中22名参加（9名については後日書面協議）

### 【概 要】

#### 1 開 会

委員31名中代理を含む22名が参加し、残り9名についても後日の書面協議について承諾があり会議が成立

#### 2 あいさつ

小松課長があいさつ

小松課長が議長として議事進行

#### 3 説明事項

##### （1）地域公共交通をめぐる秋田県の現状と支援施策

資料1に基づき、事務局が説明

#### 《質疑等》

日野委員（秋田大学大学院理工学研究科准教授）

新型コロナの影響に関する説明でデータを見ると非常に厳しいということがよくわかったが、貸切バスが令和2年12月をピークに持ち直している要因は何か。

#### 事務局

その時期は、国のGoToトラベルが秋口から再開されたことや県の5月補正で実施した貸切バス料金の半額補助等が相まって年末にかけて利用が伸びてきたものと聞いている。それ以降は緊急事態宣言の発出など新型コロナの感染再拡大等により利用者が再び減少している。

#### 棚谷委員代理（秋北バス）

例年12月は年間の中で貸切バスの需要が一番少ない時期であり、その時期に例年になかった国のGoToトラベルや県の貸切バス料金の半額補助等によ

る需要が膨らんだものと見ている。

資料にあるグラフは、県内の主要乗合バス事業者3社の数字であり、当社は残念ながら前年度を下回ったが、その他の2社では前年度を上回り、このような数字となっている。

## (2) 秋田県地域公共交通計画の策定について

資料2に基づき、事務局が説明

### 《質疑等》

日野委員（秋田大学大学院理工学研究科准教授）

県で策定する計画と市町村で策定する計画はどのような関係となるのか。国土計画であれば、県計画と市町村計画で整合性を図る必要があると思うが、今回の計画は市町村計画とは全く独立したものなのか、それともある程度整合性を取っていくものなのか。

事務局

県の計画は広域の交通ネットワークを主な対象として策定し、市町村ごとの路線や交通ネットワークについては各市町村で検討していただくが、方針や方向性についてはしっかり擦り合わせながら進めていく必要がある。

今回県の計画を策定するにあたって、県内市町村にも参画いただいております、ご意見・ご指摘をいただきながら進めていく。

また、今後ないしは並行して市町村で計画を策定する際には、しっかりと擦り合わせをした上で、県の方針も踏まえた上で策定していただきたいと考える。

日野委員（秋田大学大学院理工学研究科准教授）

できれば県の計画があることで市町村でも計画を策定しやすい、あって良かったと思ってもらえるような計画になれば良いと考えている。

## 4 議 題

### (1) 生活交通維持確保改善計画（地域間幹線系統確保維持計画）の承認について

資料3-1～4に基づき、事務局が説明

### 《意見・質疑等》

渡邊委員（能代市利用者代表）

バス運行の厳しい状況がよくわかった。地元の能代市では、五明光線が廃止され、能代と八竜を結ぶ路線と三種町内を回る交通とに再編されたが、かなり善戦していると思っている。今年の秋から本格運行となるがぜひ頑張ってもらいたい。

自宅の前を真名子線と大野岱線のバスが通っているが、時間帯にもよるだろ

うがかなり苦勞しているなど思っている。今後課題となってくるのではないかと考えている。

能代市内でもスマートフォンを活用して予約を行うA I オンデマンドの取組が始まっており、各地域を中心とした取組が重要だと考える。

#### 《議 決》

「生活交通確保維持改善計画」は承認された。

#### 5 その他

- ・協議会設置要綱の規定に基づき地域部会を代表して活性化協議会へ出席する市町村について、大館市を選出
- ・資料4に基づき、事務局が県の新規事業（地域公共交通情報デジタル化推進事業、地域公共交通チャレンジ事業）について説明

#### 《委員から》

与齊委員（能代市商工労働課参事）

チャレンジ事業について、補助率や予算額についてお聞きしたい。

#### 事務局

予算取りの段階での案件が少なかったことから、初年度は、対象経費の1/2、上限300万円として財政当局へ要望している。初年度は少し規模は小さいが、複数年の計画であってもしっかり支援していきたいと考えている。例えば、今年手を挙げていただいて3年間に渡る計画ということであれば、2年目、3年目も優先的に予算が付くようにしていきたい。

与齊委員（能代市商工労働課参事）

申込は民間事業者でも可能か。

#### 事務局

民間事業者でも可能である。ただし、複数主体の連携を念頭に置いており、例えば民間事業者が手を挙げる場合であれば、沿線の自治体や商工会と連携したプロジェクトとなっている必要がある。

与齊委員（能代市商工労働課参事）

当市では、A I オンデマンドシステムを試験的に導入しているが、その事業に何か組み合わせれば対象となるか。

#### 事務局

既に実施されている事業であれば、そこに何か組み合わせて手を挙げていただければ、コンテストの対象になり得ると考える。

#### 棚谷委員代理（秋北バス）

令和2年度は秋田県を始め、県北エリアの市町村に、様々な方面でご支援をいただきこの場をお借りして御礼申し上げます。ところが、年度が明けて、首都圏を始めとする都道府県で緊急事態宣言が発出されるなど、また厳しい状況となっている。R3.4～6月の第1四半期の実績は、昨年度と比べると若干貸切バスが上回っているもののまだまだ厳しい状況にある。

昨年度も人件費、特に賞与の支給率を大幅に抑えるなど費用抑制に取り組んでいるが、厳しい経営環境に変わりはない。

今後も新型コロナの影響が収束するまでは、引き続き様々な方面でのご支援ご協力をお願いしたい。

#### 鳴海委員（北秋田振興局建設部）

資料3-1のP4「19.協議会メンバーの構成員」に建設部都市計画課が含まれているが、道路課の誤りではないか。

#### 事務局

道路管理者については、各振興局建設部を記載すべきところ記載が漏れているため、修正のうえ対応したい。都市計画課については、本協議会は、地域公共計画策定のための協議会でもあるが、単に交通だけではなく、観光やまちづくりとも連携した計画とする必要があるため、まちづくりの観点から都市計画課にも参画いただいているところである。

#### 齋藤委員（藤里町利用者代表）

この協議会には直接関係ないが、「駒わりくん」（藤里町が運行主体で二ツ井観光タクシーへ委託している予約型乗合タクシー）の南方面の帰りの最終便について、現在15:10発となっているがもう少し遅い便（5便目として16:10発）を増やしてもらえないか。以前も町に要望したが、なかなか実現しない。

#### 事務局

県も藤里町の公共交通会議の委員となっており、今の話についてはそこで共有させてもらいたい。公共交通についてお気づきの点があれば今後ご意見をいただければと思う。

## 6 閉 会



## 【中央地域部会】

日 時 令和3年5月24日（月） 午後1時30分～午後3時  
場 所 各委員の職場・自宅等からのリモート開催  
参 集 委員23名中17名参加（その他6名については後日書面協議）

### 【概 要】

#### 1 開 会

委員23名中代理を含む17名が参加し、残り6名についても後日の書面協議について承諾があり会議が成立

#### 2 あいさつ

小松課長があいさつ

小松課長が議長として議事進行

#### 3 説明事項

##### （1）地域公共交通をめぐる秋田県の現状と支援施策

資料1に基づき、事務局が説明

《質疑等》

なし

##### （2）秋田県地域公共交通計画の策定について

資料2に基づき、事務局が説明

《質疑等》

なし

#### 4 議 題

##### （1）生活交通維持確保改善計画（地域間幹線系統確保維持計画）の承認について

資料3-1～4に基づき、事務局が説明

《意見・質疑等》

小玉委員（潟上市利用者代表）

五城目線の経路変更により、メルシティ潟上やイオン五城目店などを經由するようになったが、利用者は増えているのか。

伊藤委員代理（秋田中央交通）

経路変更により商業施設を利用する方は便利になったものの、元々湖東病院

へ通院する方や、五城目高校の生徒の利用が多かったことから、実際には利用者が増えるまでには至っていない。

また、生産性向上の取組にも記載した一日乗り放題券の利用エリアを五城目町にも拡大しており、秋田市から五城目町まで通しで乗られる方は増えており、そちらは一定の効果があったものとする。

加えて、先ほど説明にもあったように、令和4年の春にICカード導入を予定しており、ますます利便性の向上につながるものと期待している。

小玉委員（潟上市利用者代表）

先ほど説明事項の中で、定額で乗れるバスの説明があったが、潟上市でも、マイタウンバスが100円で乗れる。今日も市役所までマイタウンバスを利用して来たが、大変ありがたいと思っている。

工藤委員（五城目町利用者代表）

今話が出た一日乗り放題券だが、営業所でなければ購入できない。回数券はバス車内で運転手から購入出来るため、乗り放題券についても車内で買えるようにできないか。

伊藤委員代理（秋田中央交通）

乗り放題券は回数券とは性格が違うということで、社内でも協議したものの、乗務員に持たせるまでには至っていない。ご不便をおかけしているが、営業所での購入についてご理解いただきたい。

小松課長

できないということだが、せっかくのご意見なので、このような意見が出たことについて社内でも共有いただきたい。

《議 決》

「生活交通確保維持改善計画」は承認された。

5 その他

- ・協議会設置要綱の規定に基づき地域部会を代表して活性化協議会へ出席する市町村について、秋田市を選出
- ・資料4に基づき、事務局が県の新規事業（地域公共交通情報デジタル化推進事業、地域公共交通チャレンジ事業）について説明

《委員から》

なし

## 6 閉会

## 【県南・由利地域部会】

日 時 令和3年5月26日（水） 午後1時30分～午後3時  
場 所 各委員の職場・自宅等からのリモート開催  
参 集 委員29名中24名参加（その他5名については後日書面協議）

### 【概 要】

#### 1 開 会

委員29名中代理を含む24名が参加し、残り5名についても後日の書面協議について承諾があり会議が成立

#### 2 あいさつ

小松課長があいさつ

小松課長が議長として議事進行

#### 3 説明事項

##### （1）地域公共交通をめぐる秋田県の現状と支援施策

資料1に基づき、事務局が説明

《質疑等》

なし

##### （2）秋田県地域公共交通計画の策定について

資料2に基づき、事務局が説明

《質疑等》

なし

#### 4 議 題

##### （1）生活交通維持確保改善計画（地域間幹線系統確保維持計画）の承認について

資料3-1～4に基づき、事務局が説明

《意見・質疑等》

鷹島委員（由利本荘市利用者委員）

資料3-2に羽後交通の収支率が43%と記載があるが、資料3-3に記載されている収支率の目標61%とどのような関連があるのか。

事務局

事前に配布した資料では収支率の目標が各路線で61%と記載されているが

誤りである。正しくは、本荘象潟3線が29%、横手大曲線が64%、本荘象潟4線が35%、湯沢横手2線が29%、本荘秋田2線が39%、横手大曲2線が45%となる。

資料3-2の収支率は、羽後交通の地域間幹線系統6系統の数字である。

#### 《議 決》

「生活交通確保維持改善計画」は承認された。

#### 5 その他

- ・協議会設置要綱の規定に基づき地域部会を代表して活性化協議会へ出席する市町村について、横手市を選出
- ・資料4に基づき、事務局が県の新規事業（地域公共交通情報デジタル化推進事業、地域公共交通チャレンジ事業）について説明

#### 《委員から》

吉川委員（秋田運輸支局）

県内各市町村における1世帯当たりの車の保有台数について情報提供させていただく。県南地区は、他の地区よりも高くなっている。横手市は2.4台、由利本荘市は2.2台、湯沢市は2.1台、大仙市は2.5台、仙北市は2.4台、にかほ市は2.3台、美郷町は2.8台、東成瀬村は2.6台、羽後町は2.6台。県全体では2.0台で、一番少ないのは秋田市1.7台、一番多いのは大潟村の4.8台となっている。美郷町の2.8台は県内でも2番目に高い数字となっている。

この数字だけ見ると、車の保有台数が多く、なかなか公共交通の利用に結びついていかないという厳しい状況が読み取れる。

また、本日の秋田魁新報に由利本荘市の取組が掲載されていた。羽後交通のバス定期券の半額助成を6月補正で行うということであり、起爆剤になれば良いと考えている。

#### 事務局

今ご紹介のあった由利本荘市の取組について補足等ないか。

#### 由利本荘市

担当課としては秋田市で行っているワンコインバスのような思い切った形での事業実施を目指していたが、まずは半額の助成としてスタートする。一年間実施し、住民の方々のご意見をお聞きし、さらに発展させていければと考えている。

鎌田委員（由利地域振興局建設部）

1世帯当たりの車の保有台数について、秋田県は農家が多く農業用作業車の保有台数も含まれているのではないかと。乗用車や軽トラックなどの内訳は把握しているか。

吉川委員（秋田運輸支局）

軽トラック等の全ての車、さらに二輪車等も含まれている数字であり、乗用車かどうかといった整理はしていないため、あくまでも一定の目安として使っていたきたい。

日野委員（秋田大学大学院理工学研究科准教授）

県北地域部会でも話したが、せっきく県で計画を策定するのであれば、市町村の計画と連携し、整合性を取って進めていただきたい。

## 6 閉 会